



芭蕉翁記念館だより

春が近づいてきています。春になると寝心地がよくて、朝なかなか起きられない人もいるかもしれませんね。それは芭蕉さんも同じだったようです。

ふしゅう さやかき 起こされし 春の雨

元禄4（1691）年、伊賀の兄半左衛門の家に帰省していた時の句です。実家に帰ってきた安堵感からでしょうか、だらだらと朝寝をしていたところ、家族に起こされてしまったようです。「春の雨」に、まだぼんやりしている芭蕉さんの気だるい気分が表れています。

◆企画展「芭蕉を伝えた人々」開催中

3月17日(木)まで

ギャラリートーク 2月20日(土)、3月14日(日)

いずれも午後1時30分～

【問い合わせ】

○文化交流課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619

○芭蕉翁記念館 ☎ 21-2219

忍者線（伊賀線）だより



伊賀鉄道通学定期券購入費助成の

申請はお済みですか

伊賀鉄道の通学定期券利用者を対象に、令和2年10月1日から令和3年3月31日までの通学利用分に対して、かかった経費の3分の1を助成しています。

申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えて、下記まで持参または郵送してください。持参の場合、各支所振興課でも受け付けます。

申請書は市ホームページまたは、交通政策課、各支所振興課、忍州市（上野市）駅の各窓口で入手できます。まだ申請がお済みでない人は早めの申請をお願いします。

【申請期限】 3月5日(金)

※3月購入分は3月31日(木)まで

【必要書類】 申請書・保護者の本人確認書類の写し・通帳の写し・通学定期券の写し

※詳しくは、市ホームページでご確認ください。

【問い合わせ】

交通政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9694



情報交流ひろば

となりまち いが・こうか・かめやま

甲賀市

亀山市

甲賀流戦国歴史講演 ～古地図から探る東海道と水口～

甲賀市・水口はかつて東海道五十三次50番目の宿場町としてにぎわいました。水口のまちはどのように成立し、どのように発展したのか、古地図を用いて歴史地理学の視点から解き明かします。



【と き】 2月14日(日)

午後1時30分～4時30分（開場：午後1時）

【ところ】 あいこうか市民ホール

（滋賀県甲賀市水口町水口5633番地）

【内 容】

○基調講演「古地図から探る東海道と水口」

京都大学教授 山村 亜希さん

○パネルディスカッション

※参加無料・申込不要（先着356人）

【問い合わせ】（一社）甲賀市観光まちづくり協会

☎ 0748-60-2690

東海道のおひなさま 亀山宿・関宿 ～春の訪れを告げるひな飾り～

旧東海道「亀山宿」と「関宿」の街道沿いの公共施設や民家、店舗などで、江戸時代の貴重なひな人形などが展示されます。



歴史と伝統を感じるまちなみを散策しながら、桃の節句を祝う色とりどりのひな飾りをお楽しみください。

【と き】 2月13日(土)～3月6日(土)

【ところ】 ○亀山宿…亀山市本町～布気町

（旧館家、市民協働センター「みらい」ほか）

○関宿…亀山市関町木崎～関町新所

（関宿足湯交流施設、関まちなみ文化センターほか）

※アクセスなど、詳しくは亀山市観光協会のホームページをご覧ください。

【問い合わせ】

東海道のおひなさま 亀山宿・関宿実行委員会（亀山市観光協会内）

☎ 0595-97-8877



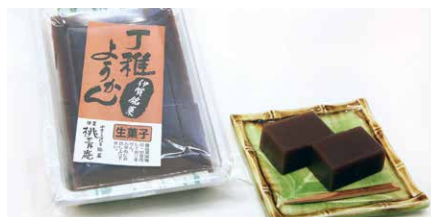
【問い合わせ】 甲賀市秘書広報課 ☎ 0748-69-2101

【問い合わせ】 亀山市広報秘書G ☎ 0595-84-5021

IGAMONO
セレクトション



No. 1C



丁稚ようかん

伊賀の冬は、盆地特有の底冷えと乾燥しやすい気候が特徴です。丁稚ようかんは、冬の乾燥した喉を潤すために作られました。伊賀では昔から、こたつを囲んでよく冷えた丁稚ようかんを食べる光景が多くみられました。

一般に水ようかんとして販売されている物よりも柔らかく甘みも控えめです。



さき 正義 先生
ふじ 義武 先生
桃 青庵 先生
藤 崎 先生

昭和15年、上野車坂町に開業し、長年家族で和菓子屋を営んできました。伊賀地域に由来した和菓子を中心に、添加物の少ない身体に優しい商品を製造しています。

当店の屋号にある「桃青」は、俳聖松尾芭蕉が、初めて江戸に旅立つ頃に使用していた俳号です。意味は、自分をまだ熟していない青い桃に例えて、絶えず切磋琢磨しているという気持ちが込められています。その字を頂き、若き日の芭蕉の気持ちで、日々和菓子作りに取り組んでいます。



【問い合わせ】 商工労働課
22・96699 FAX 22・96995

「ウィークリー伊賀市」でも見られるよ！

【放送期間】

2月1日(月)～7日(日)



小・中学生のためのコラムです

こども広場

「地域福祉ネットワーク会議」

日本は、総人口が減り、社会を支

える世代の人口が減っています。伊

賀市も同じ状況で、これからは、こ

れまで以上に地域のなかで住んでい

る人同士が支え合いながら暮らして

いく必要があります。

そのためには、地域の課題を、一

人ひとりが自分のこととしてとら

え、住民みんなで解決する方法を考

えていくことが大切です。その話し

合いの場が、地域福祉ネットワーク

会議です。

■みんなで地域を支えていくためのしくみ

伊賀市は、39の地域に地域をよりよくす

るために、地域住民がみずから設けている

住民自治協議会があります。地域の特色は

さまざまで、住民が感じる課題もそれぞれ

違います。そのため、住民がそれぞれの地

域で生活する上での課

題（生活課題）を解決

する方法を考えていけ

るよう、住民自治協議

会ごとに地域福祉ネッ

トワーク会議を設置し

ています。



■設置から運営まで支援します

地域の特色にあわせ、設置から運営まで

を地域福祉コーディネーターがお手伝いし

ます。13人の地域福祉コーディネーターは

それぞれ担当地域を持ち、住民が生活課題

をスムーズに解決できるよう支援していま

す。

■これからの地域福祉ネットワーク会議の役割

生活課題の解決に必要なものは、地域に

よってさまざまです。たとえば、生活して

いく上で、ちょっとした困りごとを頼む人

が周りにいないという課題に対し、地域ぐ

るみで助け合う体制を作ろうとしています。

ほかにも地域住民が気軽に集まれる居場所

をつくる活動を行っている地域もあります。

このように、住みやすい地域をつくるた

め、地域福祉ネットワーク会議の役割はま

まます重要なものとなっています。

すでにたくさんの人が地域のために、い

ろいろな活動をしています。みなさんも自

分の暮らしている地域で行われている行事

などに、一度目を向けてみてください。

【問い合わせ】 医療福祉政策課

26・3940 FAX 22・9673